

なえどこ夜教室

代表者 岡野 恭子 (経済学部経営システム学科3年)

1. 目的と概要

- 目的：①学生の地域活性化に関する学びへのモチベーションの維持・向上
②なえどこメンバー自身の成長
③地域に貢献できる学生の育成

概要：なえどこ夜教室（地域活性化に関する講演会・ワークショップ等）、なえどこ青空教室（徳島県上勝町・神山町の視察ツアー）等の企画、実施

2. 実施期間（実施日）

平成26年4月 から 平成27年3月まで

3. 成果の内容及びその分析・評価等

○なえどこ夜教室

なえどこ夜教室は、「地域」と「働く」をテーマに全国の地域で活躍されているおもしろい方を講師にお呼びし、地域活性化に関する活動のお話や講師の方の生き方や考え方にふれる講演会やワークショップを行う企画です。月に二回、金曜日の夜に主に学内で行っています。学生の視点で講師を選び企画することで、気軽に参加できる学びの場を提案しています。（*高松商工会議所さんと連携させていただき、活動を行っています。）

今年度は第8回から第22回までの計14回実施致しました。

○なえどこ青空教室

なえどこ青空教室は、昨年度第2回なえどこ夜教室の講師としてお越しいただいた一般社団法人ソシオデザインの大西正泰さんのご活躍されている、徳島県上勝町と神山町を実際に訪れ、地域活性化の生の現場を見て感じ、学ぶという企画です。第2回なえどこ夜教室での講演を通し、学んだことをより深く学ぶことができました。

実施日：2014年9月25日（木）

参加者：香川大学の学生（1～3年生）21名

教員 1名

日程：08:30 大学発

11:00 神山（アートコース見学）

12:00 神山で働く方々とお話しながら昼食

13:00 神山（サテライトコース見学）

14:00 神山散策

16:00 上勝

・上勝百貨店

・大西さんの職場見学

・リサイクルセンター見学

21:00 大学着

神山町のアートコースでは、地域活性化活動の一環として、アートを利用した事例を見学し、サテライトコースでは、田舎でITや情報を扱う仕事を行っている先進事例を実際に会社の中まで見学させて頂きました。新しい田舎での働き方、田舎の生かし方について学びました。上勝の上勝百貨店では、量り売りという売り方でゴミの減量に貢献している商店を見学し、掲示板を利用してやりとりし、物々交換が行われているリサイクルセンターの見学もしました。また、大西さんの仕事である、使われなくなった民家にIT企業の企業家を呼び上勝に拠点を置いてもらう活動を行っている本部の見学もさせていただきました。誰かがいらなくなったものをもらってきて改造・修復し安く会社をつくることができます。最近では都会に出る人が多く、田舎は過疎化が進んでいますが、この視察ではその問題を改善していけるような事例を実際に見ることができました。

参加者のアンケートでは「学びへのモチベーションが上がった」「地域活性化への興味が深まった」の満足度は80%、「実際に地域にでることで座学よりも学びが深まったか」は100%の満足度を得ることができました。長期休暇を利用した、1日かけてのフィールドワーク・視察は大変有意義なものだったと感じました。

4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

なえどこ夜教室は毎回、香大生に限らずFacebookなどで広く参加者を募集しています。そのため、社会人の方にもご参加いただいております。中にはコアなファンとなり、毎回のように来てくださる方もいらっしゃいます。このことにより、参加者の学生と社会人の交流ができることはもちろんのこと、香川大学が学生の活動に支援しているということも地域のみなさんに知って頂ける機会になっているのではないかと考えられます。また、なえどこ夜教室での鬼無の盆栽についての回や、高松の漆についての回では、地域の伝統工芸について参加者に知っていただく機会を持つことができ、地域の地場産業の活性化に少しばかりでも貢献できたのではないかと思います。

また、2月7日に岡山県で行われた大学や企業の行っている活動のプレゼン大会（おかやまローカルアソシエイト）でもなえどこの活動紹介のプレゼンをさせていただき、香川大学の学生は学生主体のプロジェクト活動を精力的に行っているということ、また、大学はそれをバックアップしていることを広めることができました。なえどこの活動について、多くの社会人の方々にお褒めのお言葉を頂くことができました。

5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

なえどこの活動を通して、商工会議所の方との打ち合わせや講師の方とのメール・電話のやりとり、参加者の社会人の方とのコミュニケーションなど、大人と接する機会が大変多く、社会に触れることができました。商工会議所さんとは「連携」させていただいているので、こちらの言い分が学生だからといって通るわけでもありません。期限を守る、といった最低限のマナーを守ること、言葉遣いやちょっとした気遣い・マナーなど、社会に出てから必要となってくることを大学生のうちに学べた、ということが今後社会に出ていく上で、大変大きな糧になると感じています。また、一つの目標に向かって組織内でどう役割分担するのか、なえどこの存続のためにはどうメンバーを集めて、どう人材育成するのか、など組織として動くこと・考えなければならないことを日々考えて悩みながら活動してきました。また、自分たちが一生懸命準備してきた企画が成功した時の達成感には自信にもつながりました。もちろん、私たち自身も地域活性化に関する知識や他のプロジェクトの活動を知ることもできました。

6. 反省点・今後の抱負（計画）・感想等

反省点としては、イベントの宣伝方法が挙げられます。これまで、なえどこ夜教室等イベントの宣伝は、Facebook や今年度新たに導入した twitter といった SNS、作成したチラシの掲示、配布、一部の授業での告知で行ってきました。しかし、回によってばらつきはあるものの、思うように参加人数は伸びませんでした。

今後の抱負（計画）としては、先ほどの反省点の改善を目指し、一回一回のイベントの内容をより濃いものにしていきたいと考えています。というのも、高知県馬路村の農協組合長の方に講演していただいた、第22回なえどこ夜教室では、SNS と口コミでの宣伝以外、特にチラシを掲示・配布しなかったにも関わらず、新規の参加者も多く、これまでの倍近い人数の方に参加していただくことができました。このことから、なえどこの活動はある程度の学生にすでに知られているということ、今回の例では、馬路村の知名度による影響が大きかったですが、私たちがいかに講演の内容をうまく宣伝できるかが集客に大きく関わっているということが分かりました。なので、来年度からはメンバーの人数のことも考慮し、これまでの月2回のなえどこ夜教室開催日を月1回に変更し、企画により時間をかけることで、より内容の濃い講演にしていきたいと考えています。また、そうすることで、より多くの方に参加していただけたと思います。

また、今後もなえどこの活動を持続していくために、新メンバーの勧誘に力を入れたいと考えています。来年度から、メンバーの現3年生が就活で抜けるため、現2年生3名で活動をしなければなりません。ようやく知名度が上がってきた、なえどこの活動を持続していくためにも、新メンバーの獲得が必須となります。具体的には、現段階で、他プロジェクトと連携しての新入生のプロジェクト勧誘イベントの開催等の企画を考えています。また、なえどこの活動内容や魅力の詰まったパンフレットも活用し、新メンバー獲得に力を入れていきます。

なえどこの活動を通して、組織の一員として、役割を果たすことの大切さ、また、仲間と共に、イベントを企画し、運営すること、その過程での苦労や失敗、成功を分かち合うことの喜び、普段の学生生活では得られない有意義な経験をたくさんすることができました。また、そんななえどこの活動を今後も続けていきたいです。

7. 実施メンバー

代表者 岡野 恭子（経済学部3年）

構成員 三宅由貴奈（経済学部3年）

岡崎 康哲（経済学部3年）

小椋安季子（経済学部3年）

浮田 菜央（経済学部3年）

小笠原 徹（経済学部3年）

荒木 眞子（経済学部3年）

中川 有彩（経済学部3年）

小野 友馬（経済学部3年）

井上なつみ（経済学部2年）

長谷川 璃（経済学部2年）

須田 里奈（経済学部2年）